

平城京の地鎮供養—平安を願うころ

平城京跡（左京五条四坊十坪） 奈良市大森町

JR奈良駅から南へ500m程の場所では、平成13年度から、JR奈良駅南特定土地区画整理事業に係る発掘調査を実施しています。今回は、平成20年度に行った、平城京の条坊復元で、左京五条四坊十坪と東四坊坊間東小路に該当する発掘調査について紹介します。

奈良時代 東四坊坊間東小路および同東西両側溝、五条条間路および同北側溝、掘立柱建物・塀、井戸、土坑、溝、築地塀、十坪の東・南・北側雨落溝、埋納遺構を検出しました。

遺構の重複関係や配置から今のところ5時期の変遷が推定できます。

1期は、坪の中央よりも北側に建物や塀がまばらにある程度です。

2期になると坪の中央やや南寄りに東西棟の中心建物が南北に2棟並び、その西側に東廂を持つ南北棟建物が建ちます。

3期になると坪の中央やや南寄りに南北廂を持つ東西棟の中心建物が建てられます。

4期になると坪内を東から1/3ラインで区画する溝が掘られるのに伴い、3期の中心建物が北西にうつり南北廂を持つ東西棟の中心建物に建て替えられます。

5期には中心建物がなくなり、坪の北半に建物や塀がまばらにある程度です。

この坪は2～4期は一坪を利用しています。

図1は3期の主要遺構の概念図です。坪内を東から1/4ラインで区画する溝があります。坪の中央やや南寄りに中心建物が建てられ、南端の築地塀には門がとりつきます。また、門の南の五条条間路北側溝には橋が架かっています。

埋納遺構 十坪では、平成19年度調査分を合わせて宅地内で6基、築地塀の際で3基、合計9基の埋納遺構があります。埋納遺構A～Cは3期のもので、AとBは築地塀の際に、Cは坪内にあります。埋納遺構A～Cは出土土器の形から奈良時代の終わり頃のものと考えられます。



調査位置図 (1/10,000)

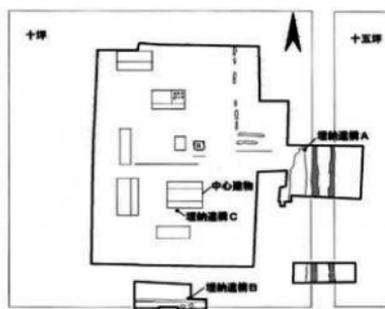


図1 3期主要遺構概念図 (1/2,000)



3期の中心建物 人が立っているのが柱位置 (南から)

埋められていた須恵器の長頸壺 十坪の9基の埋納遺構のうち、須恵器の長頸壺1点を含む複数の土器が埋められているものが3基見つかりました(図1)。土器の形から、いずれも奈良時代の終り頃のものと思われます。

埋納遺構Aは十坪の東端のほぼ中央で見つかりました。直径約58cmの歪んだ円形、深さ約27cmの穴の底に須恵器の長頸壺1点と奈良三彩の小型火舎(仏教の行事で使う香炉)1点を置いて埋めていました。

埋納遺構Bは中心建物の中心ライン上の坪南端で見つかりました。約55cm×約40cmの角の丸い長方形、深さ約10cmの穴の底に須恵器の長頸壺1点を置き、その横に土師器の皿が1点、皿の周りに碗が7点埋められていました。土師器は穴の底から離れて出土しており、穴を埋めながら上を向けた状態で置かれたと思われる。

埋納遺構Cは中心建物のすぐ南で見つかりました。直径約35cmの円形、深さ15cmの穴の底に須恵器の長頸壺、奈良三彩の小型火舎が1点ずつ置かれ、その横に土師器の碗6点が重ねて埋められていました。小型火舎には炭のかけらが入っていましたが、3例ともこれ以外に土器の中には何も入っていませんでした。

今までに、平城京内で100例以上報告されている埋納遺構のうち、須恵器の長頸壺、土師器、奈良三彩の小型火舎という組合せは、類例がありません。また、須恵器の長頸壺を使う例は右京一条北辺二坊四坪に2例、左京二条六坊十三坪に1例しかなく、奈良三彩の小型火舎が埋められていたのは初めてです。



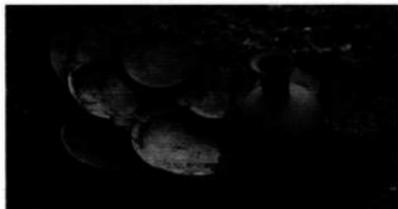
埋納遺構A(東から)

土器を埋めた理由 複数の土器と一緒に埋めた例は平城京内でいくつか見られ、金箔やガラス玉などが一緒に埋められている場合と、今回のように何も検出できない場合があります。

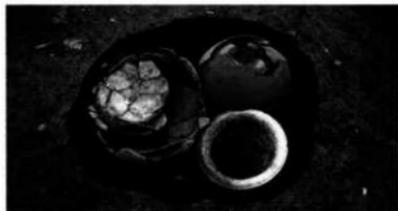
土地や建物の平安を祈る地鎮について記した『ホトケツツミ仏説陀羅尼集経』という奈良時代のお経には、その方法として、金・銀などの七宝、米・麦などの五穀を鎮めようとする場所の四隅と中央に埋納すると書かれています。複数の土器は、七宝や五穀などを納めた容器であり、何も検出できないものは、穀物などの有機物が納められていたと考えられています。

埋納遺構A～Cも穀物などが納められていた地鎮の跡と思われる。A・Bは、十坪全体を鎮めるため東・南辺に、Cは建物の平安を祈り、そのそばに埋められたのでしょう。今回の地鎮は十坪全体を鎮めるため坪の四隅ではなく、坪の各辺の中心に埋納物を納めたと思われる。坪の北・西辺の中央付近でも同様の埋納遺構が見つかる可能性がありましたが、検出できませんでした。

密教による影響で平安時代に地鎮めの形が整う以前は、埋める位置や埋納物など様々であったことが発掘調査の成果からもわかります。今回の埋納遺構も、奈良時代の地鎮め供養の形の一端を示しているのでしょう。



埋納遺構B(北から)



埋納遺構C(北から)